



# スケトウダラ（根室海峡）

①

スケトウダラは北太平洋に広く生息しており、本評価群はこのうち根室海峡で漁獲される群である。本資源の漁獲量等は漁期年（4月～翌年3月）の数値を示す。

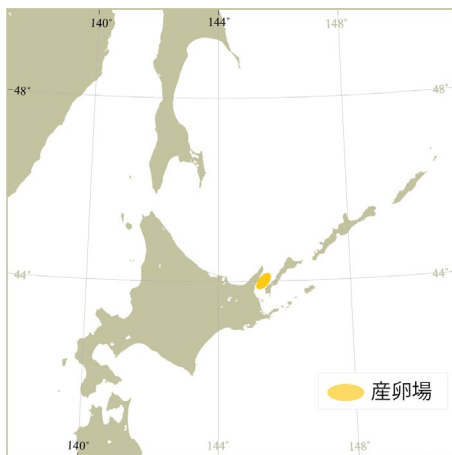


図1 分布図

本資源は北方四島水域やロシア水域などに跨って分布する。日本漁船の操業水域には主に産卵期に来遊すると考えられる「跨り資源」である。

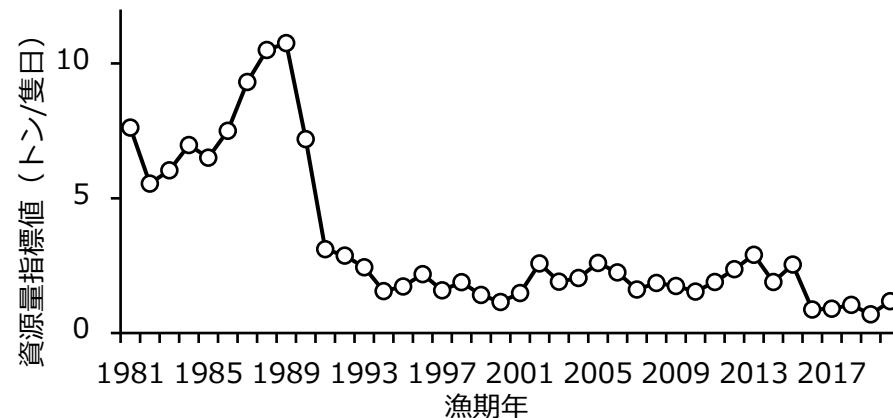


図3 資源量指標値の推移

漁獲量は1989年の11.1万トンを超えて急減して2000年には1万トンを下回った。2010年前後に再び1万トンを超えて漁獲されたものの、その後減少して2016年以降は0.5万トン以下で推移している。2020年は0.5万トンであった。

羅臼地区のすけとうだら専門の固定式刺し網漁業による延べ出漁隻数あたり漁獲量を評価に用いる資源量指標値とした。2002年以降は本格化したブロック操業<sup>+</sup>のデータを除いた。

<sup>+</sup> 漁獲圧軽減による資源保護と操業コスト削減を目的に、複数の経営体がグループを作り、グループ内の1隻が交互に休業する操業形式

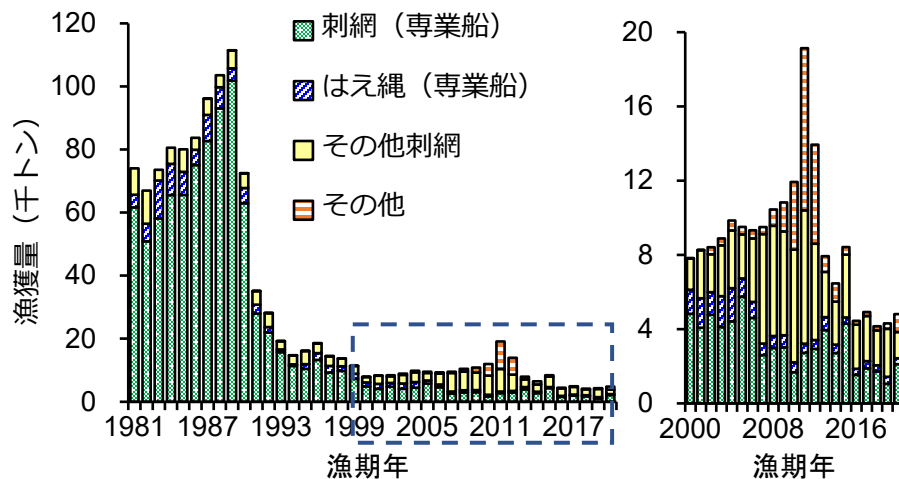
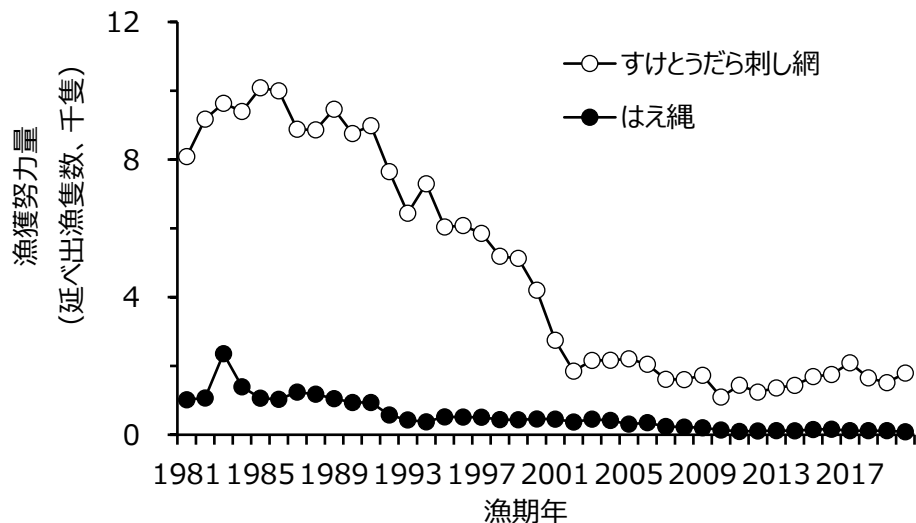


図2 漁獲量の推移

# スケトウダラ（根室海峡）

②



※すけとうだら刺し網の2002年以降はブロック操業を除く値

## 図4 漁獲努力量の推移

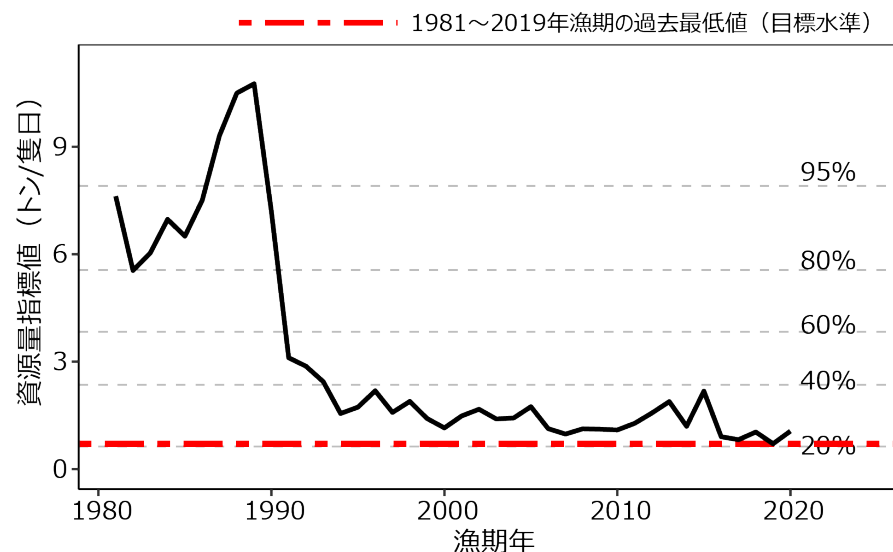
漁獲努力量は、すけとうだら刺し網漁業では2002年まで大きく減少してその後はほぼ横ばい、はえ縄漁業も1983年を最高にその後減少した。隣接海域におけるロシア漁船の漁獲量・漁獲努力量は不明である。

本資源の漁獲シナリオでは、資源量指標値の1981～2019年の過去最低値（0.71トン/隻日）を、維持または回復させるべき目標と定められている。2020年の資源量指標値（1.06トン/隻日）はこの目標水準を上回った。

## 本資源の漁獲シナリオについて

本資源は隣接する水域に跨って分布し、日本漁船の操業水域における情報のみでは資源全体の動向を捉えることが出来ないことから、最大持続生産量に関する目標管理基準値や限界管理基準値を定めることは困難である。

本資源の漁獲シナリオでは、我が国の漁船による漁獲の状況等を踏まえて、我が国漁船の操業水域に分布する資源の最適利用が図られるよう漁獲を管理するとされている。



## 図5 資源量指標値と目標とされる水準